氏名	荒木　和美	部署	共通教育科	職名	准教授
研究分野	応用言語学、英語教育				
学位	修士				
学歴	津田塾大学学芸学部英文科（英文学士）　カンザス州立大学（米国）　教育学部　大学院前期修了				
経歴	東京YMCA英語専門学校専任講師、一橋スクールオブビスネス非常勤講師、麗澤大学（留学生別科、学部）非常勤講師、日本橋女学館短期大学非常勤講師、津田塾大学非常勤講師（現在に至る）1999年度より埼玉県立大学 保健医療福祉学部専任教員。				
所属学会（役職）	日本e-learning学会				

【2015年度実績】

1．研究業績					
	著作・論文・学会発表等の名称	単著・共著の別	(1)発行所、全ページ数 (2)雑誌名、巻（号）、開始-終了ページ (3)学会名、開催都市	(1)(2)著者、編者名 (3)発表者（発表者は○印）	発行・発表年月
（1）著作					
1	該当なし				
2					
3					
（2）論文					
1	Does Teaching Grammar Really Hinder Students' Speaking Abilities? (English original paper)	単著	(1)David Publishing Company (U.S.A), 442 (2)US-China Education Review A, Volume 5, Number 6, (Serial Number 49), 400-408	Kazumi Araki	Jun-15
2					
3					
（3）学会発表					
1	該当なし				
2					
3					
（4）その他					
1	該当なし				
2					
3					

2．競争的資金等の研究			
	競争的資金等の名称	研究名、研究代表者・研究分担者の別	研究期間
1	該当なし		
2			
3			

3．教育業績			
	講義・演習・実習・論文指導等の名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
（1）講義			
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
（2）演習			

1	英語Ⅰ（社会福祉子ども学科）科目責任者	2015前期	授業を担当したクラス⑩在籍数28名。クラス⑫在籍数20名。 ４月の入学時にTOEIC-IPテストを実施し、点数によりクラス編成を行った。 授業は、習熟度別に編成されたクラスで実施した。クラス⑩から⑫までは、成美堂出版社より出版されたSocial Issues in a Contemporary Worldを用いて、前期はChapter1～3まで学習した。（Chapter 1 Food and Global Culture, Chapter 2 Globa Wealth and Poverty, Chapter 3 Ageing Society） 副教材には、金星堂出版から出版されたThe Next Stage to the TOEIC Testを宿題として課題に出した。進度表に学習した問題数と正解数を記載し、学期末に担当教員に提出した。クラス⑩はBasic レベルを用い、クラス⑫はPre-Intermediateレベルを用い、クラス⑪はIntermediateレベルを用いて 学習を進めた。各課のAnser Keyは課題に出した次の週に授業時間内に プリントしたものを学生に配布した。7月末の前期試験には、各クラスごとに3種類の試験問題を作成した。この方法によって、習熟度別によって学習した学生への筆記試験における公正を保つための配慮をした。クラス⑪を担当した非常勤講師との連絡や打ち合わせを定期的に行うことで、授業を円滑にすすめるように努力した。
2	英語Ⅱ（社会福祉子ども学科）科目責任者	2015後期	授業を担当したクラス⑪在籍数27名。 クラス⑫在籍数21名。 後期は、クラス⑩から⑫まで、前期同様成美堂出版社より出版された Social Issuies in a Contemporary World を用いて、Chapter 6～8までを 学習した。（Chapter 6 Smoking, Chapter 7 Gender, Chapter 8 Population） 副教材には、金星堂出版社から出版されたThe Next Stage to the TOEIC Testを宿題として課題に出した。進度表に学習した問題数と正解数を記載し、学期末に担当教員に提出した。1月末の後期試験には、各クラスごとに 3種類の試験問題を作成した。クラス⑪を担当した非常勤講師との連絡や 打ち合わせを定期的に行った。
3	英語Ⅲ（社会福祉子ども学科）科目責任者	2015前期	授業を担当したクラス⑩在籍数27名。 ４月の入学時にTOEIC-IPテストを実施した点数によりクラス編成を行った。 授業は、習熟度別に編成されたクラスで実施した。教材にはCengate Learning出版社から出版された、Read Smartを用いた。前期はUnit1～Unit5まで 学習した。（Unit 1 Birth Order and Personality, Unit 2 The College Dropout, Unit 3 Just a Game, Unit 4 The Brick Factory, Unit 5 Man's Best Friend）副教材には、成美堂出版社から出版されたe-learning教材、English Centralを用いた。５月初旬には、出版社から２名の営業担当者を本学にお招きし、教材の利用方法とアカウント作成方法の指導を受けた。履修学生の学習量と進度によって、20パーセントを前期の成績に加味した。授業には、通常教室とコンピュータ教室の両方をほぼ毎時間使用した。試験は、１時間目と2時間目に配置されたクラスによって、不正を防ぐ目的で、２種類の別問題を作成した。クラス⑪と⑫を担当した非常勤講師２名との連絡や打ち合わせを定期的に行うことで、授業を円滑にすすめるように努力した。
4	英語Ⅳ（社会福祉子ども学科）科目責任者	2015後期	授業を担当したクラス⑪在籍数30名。クラス⑫24名。教材には、前期同様Cengage Learning 出版社から出版された、Read Smartを用いた。 後期はUnit 6～Unit10まで学習した。（Unit 6 Small but Powerful, Unit 7 More than Honey, Unit 8 Teenagers and Their Parents, Unit 9 Teaching Kindness, Unit 10 Women who Make a Difference）副教材には、成美堂出版社から出版されたe-learning教材、English Centralを用いた。1月には、Read Smartを読んで自分が興味のあった内容についてさらに深く調べ、グループワークとして原稿を書き、CAI教室で発表した。取組はどのグループも真剣で、とても良い英語でのプレゼンテーションの機会となった。

5	英語Ⅰ（看護学科編入生）科目責任者	2015前期	在籍数20名。教材には、Cengage Learning出版社から出版された Caring for Peopleを用いた。前期Unit 1～Unit 6までを学習した。 （Unit 1 Meeting Patients, Unit 2 Taking a Medical History, Unit 3 Assessing Patients' Symptoms Unit 4 Taking Vital Signs Unit 5 Taking a Specimen Unit 6 Conducting Medical Examination） 看護分野での専門用語を数多く学ぶ機会を提供し、専門分野での応用 が出来る人材養成に努めた。また、授業時間内に、ペアワーク等英語で会話練習をする時間を十分に設けた。前期試験時には、筆記試験を実施した。
6	英語Ⅱ（看護学科編入生）科目責任者	2015後期	在籍数19名。教材には、成美堂出版社から出版されたNursing Careを用いた。Unit1～Unit8まで学習した。（Unit 1 Risk for Injury: How to Maintain safety, Unit 2 Self-care Deficit: How to Practice Bathing and Hygiene, Unit 3 Respiratory Disorders: How to Relieve Respiratory Distress, Unit 4 Fluid Volume Deficit: How to Maintain Fluid Balance, Unit 5 Insomnia: How to Promote Rest and Sleep, Unit 6 Chronic Pain: How to Minimize or Relieve Pain, Unit 7 Healthy Dietary Practice: How to Gain Adequate Weight, Unit 8 Urinary Retention: How to Avoid Bladder Distention）読解を中心とした授業を展開し、専門領域である看護の様々な場面で用いる英語の表現や語彙を学習する機会を提供出来た。また、読んだ テキストについて英語で内容をクラスに発表する、"One Sentence Presentation"が効果的であった。
7	英語演習C　科目責任者	2015後期	Oxford English Grammar Course Basicを教科書として用いた。 Section 1 からSection 10までを学習した。（Section　1　be and have, Section 2 present tenses, Section 3 talking about the future, Section 4 past tenses, Section 5 perfect tenses, Section 6 modal verbs, Section 7 passives, Section 8 questions and negatives, Section 9 infinitives and -ing forms, Section 10 special structures with verbs 教科書のレベル1は比較的簡単な問題であるため、宿題とし、授業時間内にはレベル2をクラスで学習した。基本的な文法の理解のみではなく、書くこととスピーキングの基礎となる発話練習、ストレス、イントネーションの習得にも時間を費やした。
（3）実習			
1	ヒューマンケア体験実習①	2015後期	1.越谷市社会福祉協議会老人介護施設ディホーム「喜左衛門」における、1年生3名を対象に実施される実習を担当。6月の事前訪問、8月の学生対象のグループ別オリエンテーション、９月末の実習地への引率等の業務を担当。および前期2回実施されたグループごとの学内担当者会へ出席。
2	ヒューマンケア体験実習②	2015後期	1.越谷市社会福祉協議会老人介護施設ディホーム「第二喜左衛門」における、１年生3名を対象に実施される実習を担当。6月の事前訪問。8月の学生対象のグループ別オリエンテーション、9月末の実習地への引率等の業務を担当。および前期2回実施されたグループごとの学内担当者会に出席。
3			
（4）論文指導			
1	該当なし		
2			
3			

(5)その他			
1	該当なし		
2			
3			

4. 社会貢献活動

(1)講演会、研修会等の講師

	講演会、研修会等の名称	主催	講演、研修等のテーマ	開催年月
1	津田塾大学非常勤講師(兼任)		委嘱により、週2コマの授業を担当。数学科一年生の必修科目、Pronunciation Ⅰ、Composition Ⅰ の2コマを担当し、計15回の授業と期末試験を実施した。	2015年4月～2016年3月

(2)国、自治体、財団法人等における委員等

	国、自治体、財団法人等の名称	委員等の名称	任期
1	該当なし		
2			
3			

(3)ジャーナリズムでの発言

	メディア等の名称	内容	年月
1	該当なし		
2			
3			

5. 学内運営(委員会委員)

1	埼玉県立大学保健医療福祉科学学会総務委員
2	紀要委員
3	共通教育科定例会議
4	教養科目担当者会定例会議
5	英語専任教員会議
6	入試業務(社会人入試、推薦入試、センター試験、一般前期試験)

6. 受賞(研究、教育、社会貢献活動に関するもの)

	受賞名	主催	受賞年月
1	該当なし		

7. 特許の保有状況

	特許名	特許番号	登録年月
1	該当なし		

8. 特記事項

	該当なし